

令和7年度 第2回 宇治市男女共同参画審議会 議事録（要約版）

日 時	令和7年10月24日（金）午後2時 ～
場 所	うじ安心館3階 ホール
出席委員	手嶋会長、藤本副会長、足立委員、吾妻委員、居原田委員、西本委員、日野委員、廣島委員
事務局	前田人権環境部長、西川人権環境部副部長、 加島男女共同参画課長、北川男女共同参画課主幹（記録者）
議 題	<審議事項> 次期宇治市男女共同参画計画「第6次UJIあさぎりプラン」初案について
傍 聴 者	なし

1 開会

人権環境部 前田部長 あいさつ

2 議事

（1）次期宇治市男女共同参画計画「第6次UJIあさぎりプラン」初案について

（事務局）

【資料に基づき説明】

（委 員）

1 ページ「計画策定の趣旨」に、新たな課題がいくつか列挙されている。その中に、無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）による差別や弊害があるが、これは新たな課題ではなく固定的性別役割分担意識と同じくらい、昔から言われてきたことではないか。

22 ページの重点課題（2）「女性の活躍推進とエンパワーメント支援」に「推進等による女性の参画拡大等、両立支援に取り組む事業所を支援し」とあるが、「参画拡大等」と「両立支援」はイコールにならないと思う。

重点課題（3）「家事・育児・介護等の場における男女共同参画のさらなる推進」に、「今後の子育て世代では」という表現があるが、その後に、「育児休業を取って子育てをしたい男性が増える一方で、依然として負担が大きい」と書かれており、「今後の」という文言は不要だと思う。

23 ページの重点課題（4）の「あらゆる暴力の根絶と相談支援体制の強化」に、「性別問わず、決して許されないものであり」とあるが、その後の「男性、高齢者、障がい者、性的マイノリテ

ィ」という表現の中の「男性」は不要ではないか。もし、「男性」という文言を入れるのであれば、「女性」という文言も入れる必要があると思う。また、国の計画に「外国人」も入っているので、ここに加えるとよいのでは。

重点課題（５）の「地域防災における男女共同参画の推進」に、「頻発する災害によって受ける被害は甚大であります」を「甚大ですが」に、「被害や影響を受けることが指摘されています」を「受けやすいということが指摘されています」という表現にしたほうがよいと思う。また、「男女共同参画の視点にたった避難所運営が不十分」とある。内容的に正しい記述だと思うが、ここに男女共同参画に関することを記載するのであれば、避難所運営だけに矮小化せず、「災害時の対策の方針決定において女性が入っていなかったために、避難所運営が不十分になった」という内容を入れたほうがよいと思う。

26 ページ、推進施策①「固定的な性別イメージの解消に向けた意識啓発」の具体的施策 1 に、「世代間ギャップの解消につながる」という記載を追加されたということだが、「世代間ギャップ」は解消しなければいけないのかと感じる。世代によって固定的イメージが異なることは当たり前であり、ギャップの解消が必要だということではなく、「男女の固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）の解消につながる意識啓発に向けた」ということだと思う。

28 ページの計画課題（３）の「現状と課題」にある「男女共同参画社会の実現に向けて、広報、啓発活動、講演会を行い、男女共同参画を進めることは」とあるが、ここで「男女共同参画を進めることは」と示す必要はなく、「講演会を行うことで」と続けて表現すればよいと思う。

33 ページの計画課題（６）「女性のチャレンジ支援」に、「女性のチャレンジを後押しするきっかけづくり」とあるが、「女性のチャレンジの後押しを行っている」か「女性のチャレンジのきっかけづくりを行っている」としたほうがよいと思う。

34 ページの計画課題（７）「男性にとっての男女共同参画の推進」の「現状と課題」は「ワーク・ライフ・バランスを実現できている人」という表現にしたほうがよいと思う。

37 ページの推進施策⑯の「家族の介護を抱えている負担軽減を図り」とあるが、これは「介護を抱えている家族の負担軽減を図り」という表現が正しいのではないかと。

38 ページの推進施策⑳の具体的施策 54 に、「デートＤＶ、ＪＫビジネス、ＡＶ強要」とあるが、国のこの５年間の計画の中に、「リベンジポルノ」、「ストーカー」等の性被害のデジタル化が進展し、ＳＮＳを媒介して被害が多くなっていることが挙げられているので、そのようなことも加えて啓発するとよいと思う。

42、43 ページに性的マイノリティ、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、プレコンセプションケアが挙げられているが、プレコンセプションケアは文中にも説明があるが、一般の方には理解しにくいので、用語の説明が必要だと思う。

（事務局）

文章のつながりや表現など、ご指摘いただいた部分は確認の上、修正させていただく。

また、専門用語などの説明については、最終案としてまとめた段階で注釈を付ける予定にしておき、市民の方にわかりやすい計画になるように考えている。

(委員)

計画課題(11)で、推進施策②「男性が抱える課題への対応」を削除し、推進施策⑤に含める修正をするという説明があったが、推進施策⑤の文言には「生活上の困難に直面した女性等への支援」とあり、これだけでは男性も含まれていることが明確に見えないと感じた。

42 ページの推進施策⑤に、「男性のための電話相談」があり、そこをみればわかると思うが、計画課題(11)は「困難な状況を抱えた人への支援」となっており、推進施策⑤でも「生活上の困難に直面した人への支援」とすれば、いろいろな人が対象だとイメージしやすいと思う。「女性」という言葉が入っていると、女性中心だと考えやすいと思うので検討いただきたい。

(委員)

ワーク・ライフ・バランスに関し、34 ページの基本方向3「ワーク・ライフ・バランスの実現」で、「現状と課題」に「ワーク・ライフ・バランスを実現できている人は少なくなっている」と言及されているが、本当にそうなのか。

厚生労働省などの調査結果で示されているものは、34 ページのグラフにある、理想とする「仕事」、「家庭生活」、「地域生活」の関係性として、実際の「仕事」、「家庭生活」、「地域生活」が対称的に並べられているものがある。理想は、「家庭生活」を優先する人が大変多いけれども、実際には「仕事」が優先になってしまっているというようなことがある。

対比を見ると、確かに理想が実現できておらず、ワーク・ライフ・バランスを実現したいと考えているのにできていないということだが、34 ページのグラフ1つだけを見て、本当に両立できていないと判断してよいのか疑問に感じる。このグラフで、一番色の濃い横棒の部分「仕事と家庭生活を両立している」の割合が20%前半にとどまっているから、まだまだ実現できている人は少ないと言及しているのだと思うが、もしかすると、「仕事」と「家庭生活」の両立を理想とする人が、もともと20数%であったなら、ワーク・ライフ・バランスが実現できているということになる可能性もあると思う。

市民意識・実態調査で、どれを理想とするか聞いた設問があったのであれば、対比的に見せることで、まだこれからワーク・ライフ・バランスを促進する必要があるという議論につながるのだと思う。

(事務局)

意識調査には「希望に近いものはどれですか」という設問がある。34 ページの「ワーク・ライフ・バランスを実現できている人は少なくなっている」という記述の根拠は、「希望に近い」の場合だと、「仕事を優先したい」という方は2.8%しかおらず、実際に「仕事を優先している」と回答した人の割合が17.7%であった。確かに、調査結果の対比がないままでは、初案を見た方にはわかりにくいというご指摘のとおりである。

意識調査結果の「希望に近い」の回答をまとめたグラフも付け加え、2つのグラフを並べて対比しやすいよう修正をさせていただく。

(委員)

他の委員が指摘された、26 ページの推進施策①「固定的な性別イメージの解消に向けた意識啓発」、具体的施策 1 の「世代間ギャップの解消につながる」という部分については、「世代に応じた意識啓発の方法を考えていく」という考えだったのではないかと思います。

具体的施策 3 では、「全ての世代にわかりやすい」という言葉を使っているが、世代によってどのような言い方、どのようなアプローチをすればよいのかは違うと思うので、世代間ギャップの解消というより、「各世代に応じたアプローチのしかたを取っていく」というお考えだったのではないかと推測する。そうであれば、そのような表現をしていただければよいと思う。

(委員)

「女性等、困難な状況に置かれている」という表現について、「女性等」と書かれたのは、女性支援法に基づく基本計画を意識されたのだと思う。「現状と課題」に、「困難な問題を抱える女性」と書いてあるので、私も「人」という表現で、「男性」も包括してよいと思う。

(委員)

26 ページの固定的な性別イメージについて、「世代間ギャップ」がどれくらいあるのか、よくわからない。もし、年配の層と若年層で性別イメージにギャップがあり、若年層が持つ性別イメージのほうがりべラルになっているのであれば、望ましい社会の方向に向かっていると言えるのではないかと。そのギャップを解消するということは、変な話だと思う。

「世代間ギャップ」という言葉が使われているが、本当にギャップが存在するのか。どのようなギャップが存在するのかということを確認されないままに話が進んでいるのではないかと。

(事務局)

ワーク・ライフ・バランスのところと同じく、市民意識調査の中ではお示しさせていただいている。25 ページの設問等では、「女性は家庭、男性は仕事」という意識について質問しており、固定的性別イメージを持った方の割合は、やはり 70 歳代に近づくほど、賛成反対の割合が 1 対 1 に近づいた。10・20 歳代では、固定的性別イメージに反対する方の割合が多くなっていた。

先ほどの回答と重なるところがあるが、その結果を掲載した上で、初案の説明をすべきだと思うので、追加させていただく。

確かに、若年層には、我々の啓発から男女共同参画の意識が浸透してきて、そのような考え方をお持ちの方が増えているのだと思う。「ギャップの解消」だと、逆戻りというイメージもあるので、言葉の使い方も含め、改めて検討させていただきたい。

(委員)

先日、別の調査のデータを見たときに、近年の意識調査では、「男性が仕事、女性が家庭」という考え方を否定する人の割合が断然高くなってきている。ところが、もう一方で、「男らしさ、女らしさは決して悪くない」という項目に関して、「その通りだ」という人の割合は、

意外に高い。それは矛盾すると学生と話をしていたときに、ここで言う「男らしさ、女らしさ」とは一体何かと議論したが、男らしさ女らしさに関するイメージはそれほど変わっていない可能性があると思う。それは、若年層にも言えることで、具体的なアドバイスや提案はないが、「男らしさ、女らしさ」という言葉の扱いに関しては、少し注意が必要だと思う。

(委員)

大変、面白いお話なので、委員へ質問したい。役割分担の意識は変わってきているが、男らしさ、女らしさは、それぞれ大事だという意識はあり、もしかすると、その男らしさ、女らしさの中身が、以前とは違ってきているかもしれないということか。

そうであれば、固定的な性別イメージという言葉を使うよりも、「固定的な役割分担」というような言葉を使っていただくとよいと思う。

(委員)

確かに、「役割分担の更なる解消」という言葉のほうがフィットすると感じる。正直に申し上げて、男らしさ女らしさの部分に関しては、私にも適切な答えがない。これは、もっと心理的なものを指しているのかもしれない、役割というところよりも少し内面的なものを指しているのではないかと考える。

ただ、その保守的な傾向がまだそれほど解消されてないことが、ここにも出てきている「男性にとっての生きづらさ」のようなものと無関係ではないと思う。うまく言えないが、男らしさ、女らしさということは、放棄すべき問題ではないし、より深掘りしていく必要があるものになってきているのだと思う。

(委員)

宇治市では4年前からコミュニティスクールという取り組みが推進されており、私も西小倉小学校と西小倉中学校で、コミュニティコーディネーターをしている。

27ページの「幼少期から多様な選択を可能にする教育の推進」で、「無意識の思い込みは幼少の頃から形成される」とあるが、本当にその通りだと思う。運動会等でも、男女問わず活躍したり、壇上に立って発信する場面が増えてきたり、生徒会でも男女の割合が半分半分ぐらいになっている。

教育を超えて、教育学習を推進していくことも大事だと思うが、男女を問わず、そのような経験を積み重ねていくことが、男女の隔たりや男女の役割を解消していく大切な機会になるのではないかなと、最近の小中学生を見て気づいた。教育も大事であり、学習も大事であるが、実際に経験を積み重ねていけるような機会がより増えるとよいと思う。

(委員)

女性消防団に入っており、災害時の避難所運営をどのように行うかをディスカッションする場があった。「男性は男性、女性は女性」ということで、男性は有無を言わずに力仕事をさせられたり、女性は料理担当に割り振られたりすることは違うという話になった。男性でも料

理が得意で、力仕事が苦手な人もいるかもしれないし、女性でも反対の人もいるかもしれないので、そのように決め付けない方法も考えていきたいという話をしたことを思い出した。

「日頃から男女共同参画の視点を踏まえた防災対策を講じること」とあるが、ぼんやりした表現である。平常時はそのようなことはなくても、全員が危機感をもつ状況では、ギスギスした関係になると思うが、そのようなときに、誰かがリーダーシップをとり、性別で決めつけるのではなく、料理の得意な人がいれば料理を担当してもらうというような体制がとればよいと思う。

(事務局)

災害対策地区班員に向けて研修を行っており、内閣府が作成した避難所運営シートを用いて説明をしているが、そこに委員がご指摘の部分が記載されている。

男性ばかりが危険な仕事や力仕事をしないように、料理や掃除、洗濯を女性ばかりに分担しないようにということを、実際に、そこに配置される職員に、男性女性を問わず、まず投げかけることから始めている。

計画にどこまで具体的な記載するかという判断もあり、計画課題や推進施策はある程度大きい部分なので、この計画をもとに進めていく事業について年次報告させていただく中では、もう少し細かく毎年どのようなことをしているのかを含めて、報告させていただけると思うので、ご理解いただきたい。

(委員)

51 ページに、目標値や指標値があるが、男女共同参画社会の実現と言われてから随分長くなり、言葉の認知度は高くなってきている。

男女平等の考え方をしなければいけないと考えている人も、確かに多くなってきている。ただ、宇治市にとってどうなのかという視点が重要だと思う。

28 ページに言葉や事柄についての認知度というものがある。男女共同参画審議会を開き、第6次計画はどのようにするのかという話をしているが、計画の内容まで知っている方は、第5次計画で1.6%である。言葉だけ聞いたことがある方が16.4%、全く知らない方が78.1%である。

男女共同参画社会という言葉は、皆さんもお聞きになったことがあると思うので、この辺りを伸ばしていただく方を、第6次計画の期間内に考えていただきたい。

(事務局)

ご指摘通り、なかなか宇治市の計画や条例の内容まで、なかなか浸透していかないというのが実情である。今後も広報等に努め、知っていただけるようにしたいと考えている。また、委員の皆さまにもお知恵を拝借できればと思うので、よろしくお願いいたします。

(委員)

各グラフの表記が揃っていない。年度は漢字で書かれているものが多いが、8ページの表の

ように、「2020」、「R 2」と書かれているものもある。「令和」と漢字で書かれているものもあるが、統一しなくてよいのか。

また、13 ページ、14 ページのグラフの縦軸は%と括弧書きされているが、横軸は年度が3行になっており、煩雑な感じがする。横軸の右側に括弧書きで、「年度」か「年」とすれば、見やすくなると思う。

(事務局)

ご指摘については、ページのスペースの問題等もあるが、最終案の段階でより見やすい形になるように編集させていただく。

3 閉会